

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	西暦 2023 年 5 月 11 日
報告者	高居 和美
助成団体名 (所属団体名)	コスモスの会
団体住所	〒 521-0082 滋賀 <small>都道府県</small> 米原市能登瀬 7 4 4 番地 1
団体電話番号	090 — 8796 — 1574
代表者 (助成対象者)	コスモスの会
助成対象事業	多世代交流の居場所づくり
事業（助成）期間	令和2年4月1日～令和5年3月31日
事業費総額	1,000,000 円
助成金総額	1,000,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

① 令和3年度の現況

	開店日数	来店者数	1日平均来店者数	相談支援件数	1日平均相談支援件数
4月	24日	409人	17人	66件	3件
5月	24日	248人	10人	66件	3件
6月	25日	284人	11人	71件	3件
7月	25日	287人	11人	67件	3件
8月	19日	196人	10人	51件	3件
9月	21日	193人	9人	59件	3件
10月	25日	311人	12人	52件	2件
11月	22日	267人	12人	86件	3件
12月	20日	290人	14人	87件	4件
1月	19日	169人	8人	81件	4件
2月	18日	213人	11人	90件	5件
3月	22日	226人	10人	99件	4件
延べ数	264日	2,867人	11人	776件	3件

② カフェ事業

- ・季節の家庭料理ランチを500円で提供し、固定客が獲得できた。
- ・ドリンクと手作りスーツをセットで300円での提供も定着した。

③ 物品販売事業

- ・約20人の作家の手作りの品を販売する。

④ 交流の拠点事業

- ・レンタルキッチン 月2回 日本伝統医療協会
- ・ワンデイカフェ 4月 虹っこ（不登校支援団体）約100人が参加
- ・料理教室 随時 雑穀料理「つぶつぶ」食のおしゃべり会
- ・子育てサークル 週1回「おにぎりサークル」
季節ごとのイベント開催
- ・読み聞かせボランティアと連携
- ・絵手紙カフェ 偶数月に月1回開催
認知症キャラバンメイトと連携
- ・えほんの広場 2月 3月 本と地域をつなぐ活動と連携
- ・子ども食堂 月1回「こすもす こ（孤、子、個）むすびカフェ」

多世代食堂

- ・市民団体が会議等に利用 健康推進委員 仏教婦人会等
- ⑤「健康しが」活動創出支援事業「居場所から始める暮らしの保健室」
- ・健康マルシェ 10月、12月 6団体 参加者各80人
- ・足育イベント 3回開催 側弯症啓発 理学療法士と連携
足育アート
- ・「楽歩っとケア」との連携
- ・フットケア 依頼時随時実施
- ・暮らしの保健室 随時 無料健康相談
- ・研修 2月「社会モデルについて」CIL だんない
3回実施「こんな時どうする 小児救急研修会」
- ・ケアラズカフェ こむすびカフェ ワンオペママを支援
- ⑤ 事業者のチャレンジの場
- ・起業支援 エステサロン「SIRENA」
フードバンク まいばら
タクティールケア
- ⑦ 居場所 雑談 ただ居ていい場所
結婚相談
- ⑧ 生きづらさを抱える人の支援 カフェのメンテ、厨房業務
編み物を通じた支援
広報、チラシ作りを外注
米原市社協の就労準備支援の委託事業
随時ケース会議に参加
- ・個別支援 定期的な利用者6人

① 令和4年度の現況

	開店日数	来店者数	1日平均来店者数	相談支援件数	1日平均相談支援件数
4月	23日	237人	10人	109件	5件
5月	25日	224人	9人	86件	3件
6月	25日	333人	13人	88件	4件
7月	26日	306人	12人	91件	4件
8月	24日	244人	10人	65件	3件
9月	22日	221人	10人	77件	3件
10月	23日	237	10人	100件	4件
11月	20日	280人	14人	70件	4件

12月	17日	278人	16人	73件	4件
1月	17日	142人	8人	54件	3件
2月	18日	206人	11人	91件	5件
3月	14日	123人	9人	95件	7件
延べ数	254日	2831人	11人	999件	4件

② カフェ事業

- ・季節の家庭料理ランチを500円で提供し、SNSや口コミで客数が増えていたが、調理スタッフの不足、食糧費が補助金の対象からはずれたため採算が取れず、中止とした。
- ・ドリンクと手作りスイーツをセットで300円での提供は変わらずに定着した。
- ・利用者支援の一環にランチ提供が含まれていた事例には、「いつでもモーニング」と称して軽食メニューを提供した。

③ 物品販売事業

- ・約20人の作家の手作りの品を販売する。
新たな作家も加わるが、布マスクが好調な売れ行きを見せた令和2年度～3年度と比較すると売れ行きが低迷し、収入源となる。
- ・地域の祭りやイベントが夏以降復活し始め、「柏原やいと祭り」「米原市人権総合センター文化祭」でのマルシェ等に出店する。
- ・天気の良い日は店頭にてワゴンセールで販売し、見える形を工夫した。
- ・インスタグラムのフォロワー数が増加し、新しく入荷した品物をSNSにてPRした。

④ 交流の拠点事業

- ・レンタルキッチン 月2回 日本伝統医療協会「腸～イイらんち亭」
コロナ感染の落ち着きとともに安定した開催がなされて集客数が増えた。
- ・レンタルキッチン 週1回「月曜カフェの会」
500円でのランチを元飲食業経営の方が提供、評判になり賑わいが生まれた。
また、同級生のつながりから新たな出会いが多く生まれた。
- ・レンタルキッチン 週1回 お弁当販売 不登校親の会「リリーフ」
次年度からの新たな居場所づくり事業「ぶらっとほーむ」開設に向けての準備を支援した。
- ・料理教室 随時 雑穀料理「つぶつぶ」食のレッスンとともに居場所おしゃべり会も開催。
- ・子育てサークル 週1回「おにぎりサークル」の定着
季節ごとのイベント開催 保護者が自主的に運営する。
- ・読み聞かせボランティアと連携、定着
- ・絵手紙カフェ 偶数月に月1回開催 10月から場所を「やすらぎハウス」に変更。
- ・障害者支援施設余暇支援 放課後等デイサービス利用者の長期休暇時にカフェを楽しむ
社会参加支援に協力。
- ・市民団体が会議等に利用 健康推進委員 仏教婦人会等

⑤ 子ども食堂

- 月1回「こすもす こ（孤、子、個）むすびカフェ」多世代食堂
「むすびえ」ネットワークに参加し、支援を受ける。
「暮らしの保健室」事業とも連携し、看護師による小児の疾患の研修会、食育の研修会「布花リースづくり」のワークショップの開催など、プログラムを工夫した。

参加者は、10～20 人前後。

⑥ 「健康しが」活動創出支援事業 「居場所から始める暮らしの保健室」

- ・足育イベント 1 回開催 ゲームを交えて乳幼児から成人までのケア
- ・「楽歩っとケア」との連携
- ・フットケア 依頼時随時実施 知的障害の方たちの相談支援が多かった。
原因のわからない足の痛み、歩行障害、巻き爪など
- ・暮らしの保健室 随時 無料健康相談 婦人科疾患、がんの手術、精神疾患等きめ細かい相談に乗る。
- ・研修 「子ども食堂」と連携
6 月「夏に多い子どもの病気やケガ」
8 月「食の 8 ケ条」
- ・ケアラズカフェ こむすびカフェ ワンオペママを支援 おしゃべりしながら寄り添う

⑦ 事業者のチャレンジの場

- ・起業支援 エステサロン「SIRENA」
フードバンク まいばら
タクティールケア
楽歩っとケア

⑧ 居場所 雑談 おしゃべり 井戸端会議 ただ居ていい場所
結婚相談

⑦ 生きづらさを抱える人の支援

さまざまな障害、背景を抱えた人隊を支援する。

カフェのメンテ、厨房業務

編み物を通じた支援 編み物の技術が上達し、質の高い作品を作成し、自己肯定感が高まる。

キッズコーナーの清掃、消毒を通じて母子の支援

広報、チラシ作りを外注

米原市社協の就労準備支援→参加支援の委託事業

随時ケース会議に参加

個別支援 定期的な利用者 8 人 それぞれに応じたインフォーマルな支援をする。

3、事業成果

令和 2 年、コロナ感染の拡大という思いがけない社会の変化に翻弄されながらも、ひるまずに人が集まり、人とかかわる活動が続けられた。

70 歳前後と高齢のスタッフが多く、健康状態に問題を抱えることが増えた。

店舗経営が困難になって自走できないことから 3 年間で惜しまれつつ事業をいったん終了した。

居場所を開くことにより、思いがけない人と人とのつながりが生まれて驚いている。

つながった人どうしがさらにつながり、次のつながりを呼び、新たな活動が生まれる。

つながりが広がることにより、困っていたことの解決の方法がいくつも見えてくる。

また、助けてくれる人が自然に現れる。

セミプロの作家もいるが、当事者の作家も半数くらいいて、自分の作った作品が人の手に渡り、愛されて使われるのを目の当たりにして、自信を取り戻していくのがわかる。

福祉事業所でも学校でもない地域のカフェで過ごすことにより、ただ居るだけで受け入れられる安心感が得られ、落ち着き、家庭でも落ち着く。

未就園の子供を持ち、地域とつながりのない若い母親のワンオペ育児は、都市部でもない、田舎町でも存在していて、コロナ禍で制限の多い子育て支援センターで知り合った親子が大勢集まり、子ども食堂を開くことにつながった。

子どもが集まると大人も集まり、実家のような気兼ねなく子どもと居られる空間が生まれた。

また、地域のスーパーの敷地内と言う立地条件の良さも手伝い、起業を目指す人の拠点にもなった。自己実現だけでなく、地域に貢献したいという若い世代がいることに気づき、背中を押すことができた。代表者が看護師であることを生かして、「暮らしの保健室」事業も行うことができた。

広く多世代への支援につながった。

4、今後の課題など

「CAFÏ&居場所こすもす」が閉店しても、新たに同じ理念で居場所を作ろうとする若い世代の人が生まれ、少なからずハード、ソフト両面で支援することができた。長く活動が続けられるように、志を持つ市民に運営資金の支援をお願いしたい。また、様々なネットワークが機能するように、地域包括支援センターや社会福祉課、社会福祉協議会等がアウトリーチをかけて、地域を歩いてほしいと思う。重層的支援体制整備事業の出口事業として、様々な居場所が点在するとういと思う。